

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 26 日現在

機関番号：34506

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370808

研究課題名(和文) 譜代小藩堅田藩の基礎的研究 - 地域社会の変容と藩政の展開 -

研究課題名(英文) The basic research of Katata-domain as Fudai small domain - the community transformation and deployment of governance -

研究代表者

東谷 智 (HIGASHITANI, SATOSHI)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：10434911

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では近江国堅田藩および藩主堀田家に関わる史料を集成し、堅田藩の基礎的な研究を行った。写真撮影などによって以下の史料を収集した。(1)近江国内および飛地領である下野国の地方文書。(2)東京、千葉、宮城などの機関に保管されている藩政文書や藩主堀田家の大名家文書。収集史料を用いて、以下の研究成果を挙げた。(1)堅田藩の陣屋がある本堅田村の大庄屋日記を輪読して読み進めた。(2)堅田藩の行政機構や政策の展開、堅田藩領と寺院の関係性、気候変動と藩政の展開など多様な論点について明らかにした。(3)上記2点については、一部を学術雑誌に成果を発表した。なお、研究の中核史料である大庄屋日記の一部を修補した。

研究成果の概要(英文)：In this study, there were creating outputs about Katata-domain and its feudal lord(Hotta house).

One is collecting data of administrative documents. Two is elucidating the basic facts of the regional domination by analyzing the document, such as the tax system, the relationship between the local and the temples. Three is the relationship with other regions, for example people and goods distribution, climate change, Hotta's relatives revealed the impact of the deployment of Katata-domain.

研究分野：日本近世史

キーワード：藩政史 堅田藩 地方支配 行政機構 寺社政策 飛地領 気候変動

1. 研究開始当初の背景

藩政史の研究は多くの蓄積があるが、譜代小藩の研究は十分には進んでいない。その理由は、藩政文書・大名家文書の残存状況に寄るところが大きい。小藩の中には、明治以降家政機関を維持できないため、藩政文書・大名家文書を統一的に管理することができなかった藩もある。そのため、史料が様々な機関や家などに分散して残存していることがある。

本研究が対象とした近江国堅田藩でも、江戸時代後期に居所を堅田から下野国佐野に移したこともあり、史料が分散して残存している。本研究では、(1)堅田藩に関わる文書の集成、(2)収集した藩政文書・大名家文書と地方文書双方を対象とした分析、(3)異なる分野の研究者による総合的な分析、が必要であると認識していた。

こうした認識は、研究代表者・分担者・協力者の多くが「堅田藩大庄屋文書研究会」を組織して、堅田藩領の大庄屋が記録した「留帳」(堅田藩大庄屋日記)の輪読と分析を進める中で得られたものである。また堅田藩領があった現在の滋賀県大津市・高島市の文化財担当職員が研究協力者に加わる研究組織をとった。そのため自治体や地域住民の協力を得られる研究体制によって研究を開始できた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、(1)堅田藩に関する史料を集成し、(2)堅田藩に関する基礎的な研究を行うことである。また、(1)(2)を踏まえ、(3)堅田藩を越えた様々なつながりを組み込んだ地域社会の有り様を明らかにすることである。

堅田藩については、大津市や高島市の自治体史編纂において収集された地方文書を用いた分析がある。しかし堅田藩の全面的な分析とはならず、基礎的な研究が十全ではない。また、自治体史編纂の過程では、東京など遠隔地における堅田藩関係文書の全面的な把握・収集も十分ではなかった。こうした研究状況に鑑み、(1)(2)を研究目的とした。

なお(3)を研究目的としたことには、近江国にある小藩特有の事情がある。近江国は彦根藩領をのぞくと、小藩の所領や旗本領・幕領・他藩の飛地領が多くあったため、一円的な領知を形成していない領主が多く、所領が錯綜していた。例えば、琵琶湖を介する人とモノの交流・流通に代表されるように、他の所領との関わりを持つ局面が多い。地域社会を分析するためには、一藩領に留まらず、藩領を越える視角が必要であることを強く意識して研究することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では3点の目的を掲げた。

1点目の史料の集成については、堅田藩関係文書を写真撮影などによって収集した。藩

政文書・大名家文書の調査先として、栃木県立文書館・佐野市郷土博物館・東京大学法学部法制史資料室・東京海洋大学・国立公文書館などに赴いた。地方文書では、元禄以降幕末まで200年間余りの堅田藩や地域の動向を記録した堅田藩大庄屋日記を中核的な史料と位置付け、日記の写真撮影と翻刻を行った。また、本堅田共有文書、神田神社文書、伊豆神社文書、居初家文書など堅田地域に残る地方文書や、新修大津市史の編纂に関わって調査・収集された史料の調査も行った。一部の史料については、写真撮影及び内容のデータ化を行った。

2点目の堅田藩の基礎的な研究については、大庄屋日記の輪読会を月1回行い、研究組織全体として藩政の仕組みや動向について共通理解を得た。その上で研究組織各人の専門領域に応じて、日記以外の収集文書を合わせて分析した。分析結果は輪読会の折に報告を行うなどして、議論を受けた進化を図った。

3点目の藩領を越えた視角からの分析については、上記2点を踏まえて、研究代表者・分担者・協力者がそれぞれの分析視角を設定して研究を進めた。(1)気候変動という視角からの堅田藩の藩政の展開、(2)江戸大名社会における藩主堀田家、(3)文政期以降の飛地領支配など、多様な課題に取り組んだ。

なお(2)については、研究開始当初は見えていなかった課題であるが、研究を進めていくに当たり、堀田家の本家分家関係などが堅田藩の藩政において大きな影響を与えていることが判明してきた。そのため、堀田家本家(下総国佐倉藩)や姻戚大名(仙台藩伊達家、下総国古河藩土井家)の史料から、堅田藩関係の史料を収集する作業を行った。調査先は千葉県文書館・仙台市立博物館・古河市立図書館などである。

また、堅田藩や藩主堀田家に関する地域や施設のフィールドワークを行い、理解を深めた。

4. 研究成果

本研究の成果を研究目的に即して述べてい

研究目的の(1)に関して得られた成果は、堅田藩関係の史料について、ほぼすべてを集成することができたことである。主要な文書については、写真撮影やマイクロフィルムの紙焼きなどによって収集し、研究組織内での利用が可能な状態となった。

また、研究の中核に据えていた大庄屋日記については、輪読会を通じた読解・分析を進めることができた。その成果は〔雑誌論文〕として発表した。

なお、堅田藩大庄屋日記(全200冊)は、全点写真撮影を行う予定であった。しかし、現状では紙が吸着しているため開扉不能な冊子が含まれていた。研究組織内では史料を破損することなく吸着した紙を剥がすこと

が技術的に不可能な状態であると判断し、古文書修復について専門的な技術を有する業者に作業を依頼した。開扉作業を終えたことにより、当該史料の閲覧および撮影が可能となった。結果として、大庄屋日記についてはほぼ全点の撮影を行うことができた。

研究終了時点では、堅田藩関係の史料をほぼ集成したことにより、堅田藩の研究を行う環境が整ったと言えよう。

研究目的の(2)については、日記と日記以外の史料を関連づけて、堅田藩の基礎的な分析を行った。研究の2年目、3年目には成果報告会を行い、その成果の一部を口頭で報告した。

【第1回】

2014年3月8日

- (大津市北部地域文化センター)
- ・東谷智「堅田藩領と堀田家の世界」
 - ・郡山志保「堅田で書き留められた触れ
- 本堅田村書式留帳の内容 - 」
 - ・鎌谷かおる「江戸時代の本堅田村を知る
- 明細帳にみる300年前の堅田 - 」
 - ・高橋大樹「堅田の空間を読む
- 再発見の古絵図を中心に - 」

【第2回】

2015年1月31日

- (大津市北部地域文化センター)
- ・東谷智「堅田藩における
大庄屋の成立とその職掌」
 - ・鎌谷かおる「江戸時代の納税から
読み解く村の歴史
- 本堅田村の「免定」の分析を通じて - 」
 - ・高橋大樹「江戸時代の本福寺と堅田
- 「本堅田村書式留帳」にみる」

このうち、第1回の東谷報告は〔雑誌論文〕の一部であり、鎌谷報告は〔雑誌論文〕の一部である。第2回の鎌谷報告は〔学会報告〕および〔雑誌論文〕の一部をなしている。

また、〔雑誌論文〕は大庄屋日記と東京大学法学部・法制史資料室所蔵の史料を用いた研究成果である。

研究目的の(3)については、研究成果を気候変動の視角から位置づけた〔雑誌論文〕を発表した。歴史学と地球環境学との学際的な研究としての広がりを持っている。

本研究での成果を研究史の中で位置づけたい。従来の藩政史研究において、研究が少なかった譜代小藩である堅田藩の基礎的な研究が進展したことが第一に挙げられる。成果の第二として、中規模の藩や大藩で組み立てられている藩政の展開とは異なる面も明らかになったことである。

従来の研究に譜代小藩を組み込み、江戸時代の領主層と地域の関係性や、施策の展開などを再考する必要がある。今後の他藩・他地域の研究でも本研究同様の分析視角や手法

が有効であると言えよう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

鎌谷かおる、佐野雅規・中塚武、日本近世における年貢上納と気候変動 - 近世史研究における古気候データ活用の可能性をさぐる - 、日本史研究、査読有、646号、2016、36-56

水本邦彦、堅田藩の百姓一揆 - 安永8年(1779)の代表越訴 - 、成安造形大学附属近江学研究所紀要、査読無、第5号、2016、18-24

東谷智・鎌谷かおる・栗生春実・郡山志保・高橋大樹・水本邦彦・山本晃子、史料翻刻「本堅田村諸色留帳」(三) 宝永元年、甲南大学紀要、査読無、文学編166号、2016、7-22

東谷智・鎌谷かおる・栗生春実・郡山志保・高橋大樹・水本邦彦・山本晃子、史料翻刻「本堅田村諸色留帳」(二) 元禄一四年、甲南大学紀要、査読無、文学編165号、2015、15-27

東谷智・鎌谷かおる・栗生春実・郡山志保・高橋大樹・水本邦彦・山本晃子、史料翻刻「本堅田村諸色留帳」(一) 元禄一三年、甲南大学紀要、査読無、文学編164号、2014、31-41

鎌谷かおる・高橋大樹、《史料紹介》江州滋賀郡本堅田村明細帳、神女大史学、査読無、2013、第30号、67-87

〔学会報告〕(計1件)

鎌谷かおる、日本近世における「年貢」上納と気候変動、日本史研究会例会、2015年4月25日、京都大学吉田キャンパス

6. 研究組織

(1)研究代表者

東谷 智 (HIGASHITANI, Satoshi)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：10434911

(2)研究分担者

井上 智勝 (INOUE, Tomokatsu)

埼玉大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：10300972

鎌谷 かおる (KAMATANI, Kaoru)

総合地球環境学研究所・研究部・プロジェクト研究員

研究者番号：20532899

平野 哲也 (HIRANO, Tetsuya)

常盤大学・人間科学部・准教授

研究者番号：50735347

(2014.12.20~)

水本 邦彦 (MIZUMOTO, Kunihiko)

長浜バイオ大学・バイオサイエンス学部・特任教授

研究者番号 : 60108363
(2014.6.30 まで)

(3)研究協力者

栗生 春実 (KURIU, Harumi)

郡山 志保 (KORiyMA, Shiho)

高橋 大樹 (TAKAHASHI, Hiroki)

水本 邦彦 (MIZUMOTO, Kunihiro)
(2014.7.1 ~)

山本 晃子 (YAMAMOTO, Akiko)